

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190700163		
法人名	社会医療法人 祐愛会		
事業所名	グループホームゆうあい 3丁目		
所在地	佐賀県鹿島市大字高津原2962-1番地		
自己評価作成日	令和2年2月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年3月10日	外部評価確定日	令和2年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者が自由に、その人らしい生活が続けられるよう、一人一人の笑顔を大切に支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>平成30年に開設された新しい事業所である。「ゆうあいビレッジ」には、広い敷地内に複合施設があり、「ゆうあい三丁目」はその一角にある。「ゆうあい一丁目」「ゆうあい二丁目」と隣り合っている。敷地内には散歩道やベンチを備えた庭園や芝生の広場もあり、利用者はゆっくりと散歩や外気浴を楽しんだり、周りに見える風景に心を癒したり、四季の移り変わりを感じる事ができる。</p> <p>運営理念は、利用者の尊厳を尊重し、一人ひとりにあった支援と、地域と共に歩みたいと云う事業所の基本的な姿勢が伺える。職員もホームを利用者の生活の場として捉え、一緒に家で過ごしている感じで接している。どこまでも利用者第一の支援は、利用者に笑顔をもたらしている。家族も訪問時に職員の笑顔のある応対に、気軽に訪問しやすくと感じている。</p> <p>協力医療機関との十分な連携は、利用者や家族も医療面に関しても安心感をもっている。また、看取り介護に関する勉強会も重ねており、利用者の安らかな最期を見送ることができる。</p> <p>管理者の適切な助言と指導もあり、全職員がワンチームとなった諸支援は、利用者や家族に信頼感をもたらし、これからの質の高いサービスが期待できる事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やリビングなどにケア理念を掲示いつでも目に入るようにしている。 地域の方との交流の面で理想に近づけていない。	同系列の「ゆうあい一丁目・二丁目」の全職員が思いを込めて創った理念を「ゆうあい三丁目」も、同じ理念を共有している。「地域の方との交流を大切にします」の姿勢も同じである。本年度末に、「ゆうあい三丁目」としての独自の理念を再検討するようにしている。管理者は、折に触れて理念の具体的な姿を助言している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の区長や民生員に参加してもらっている。近隣地域のお祭り参加や地域の消防団との防災訓練での交流など行ったり、ゆうあいフェアや秋祭りなどを開始し家族や地域の方と交流する機会を設けている。日常的な交流はできていない。	地域と交流する機会が徐々に増えてきている。スタッフの中に、法人の劇団「ゆうあい一座」の劇団員もいる。劇団は地域の老人クラブの会合や文化祭などのイベントで公演し、地域の方に親しまれている。できる範囲内で地域やビレッジ周辺の自主的な清掃作業等にも参加したり、認知症に関する相談に乗るなど、地域住民との交流の機会にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で地区の代表者については理解を求めており、認知症サポーター養成講座を開催するなどして、少しずつ地域の方に向けた活動ができています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事や取り組みを報告し、頂いた意見を検討し実践している。	年に6回開催されている。入退去、要介護度、認知症自立度、障害自立度、日々の活動の様子が、グラフや映像で報告されている。また、各委員から支援に関する質問、地域の行事等の情報、近くを流れる河川の状況、行政からの介護に関するお知らせ、その他意見交換があり、双方向的な会議になっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催のお知らせを直接市の職員に手渡しに行き、会議に市の担当者に参加してもらい意見を頂いている。	運営推進会議時だけでなく、管理者と市や広域介護事務所の担当職員とは顔を合わせる機会も度々ある。介護度更新申請の書類や案内状を持参した折に、事業所の実情や支援の取り組みを話し合ったり、情報を交換する等、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会へ出席し、定期的に勉強会を行い、身体拘束廃止マニュアルに沿って身体拘束ゼロに取り組んでいる。 玄関の施錠はしていない。	これまでに身体拘束の事例は無い。事業所独自にも計画的に勉強会を持ち、職員は身体拘束が与える身体的、精神的な弊害を理解しており、拘束の無い支援を実践している。玄関に施錠は無く、利用者も自由に出入りができる。面会に来た方を見かけて迎えに玄関に出る方もいる。外出が好きな利用者には職員が同行して見守っている。 不審者対策として、法人施設に入る場所に、防犯カメラや赤外線カメラを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修会を定期的におこない、マニュアルに沿って高齢者虐待防止に努めている。 スピーチロックゼロの取り組みを法人全体で行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施している。必要があれば家族へ情報提供を行い活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に添って説明を十分に行い、疑問点を尋ね、理解を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やサービス担当者会議などの際に、家族の意見や不満などをじっくり聴ける機会をもうけている。玄関に意見箱を設置している。	家族の面会時には、笑顔で対応し、何でも相談しやすい雰囲気づくりに留意している。家族も気軽に訪問しやすいと感じている。家族の訪問も多く、毎日見える方もある。また、行事の「そうめん流し」には準備から、当日の食事会で家族の協力があり、その際に家族同士や、家族と職員間の雑談の中から家族の本音を察することもある。花見や夏祭り、秋祭りの際に、家族の意向を伺う事も多い。利用者や家族の意見等は前向きに捉え、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、相談会を開催しており意見交換している。また、個人面談の機会を設け意見を聴いている。	定例の会議で、支援に関すること、日常業務の課題、行事計画や反省点などを話し合っている。管理者のこれまでの人生経験からくる人柄や、豊富な実践経験に基づいた具体的な助言や指導も的確である。管理者の気持ちが職員に伝わり、質の高い支援に結び付いている。理事長からの今回の新型コロナウイルス予防に関する通達も、即刻、実行されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革により残業を減らし有休休暇取得日数が増えている。半期毎に個人目標を設定し努力を評価し、就業内容などを総合的に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数により法人内コース研修を実施したり、全職員対象の研修会を行ったり、法人外研修への参加を促し内容によっては研修費の補助を行い学習への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会に参加し、情報交換をおこなっている。他事業所のイベントに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より事前に訪問し、入居後も情報を元に深く関わり、表情などに気を配り入居者の事をより理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や不安を十分に聞く機会をもち、気持ちに寄り添えるよう努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話す機会を十分に設け、求めに応じ安心して暮らせる事を伝え、受け止める努力をしている。必要があれば多職種への協力を依頼している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理、趣味活動など生活を共に過ごし、できるだけ寄り添えるように努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月々の行事予定をご案内したり日々の様子をお伝えしたり、誕生日を一緒にお祝いしたり家族にも行事に参加してもらうなど家族とともに支援していけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族にも日々の活動の様子を写真つきで送付したり、面会に来ていただいた時はゆっくり過ごしていただくように配慮したり、積極的に訪問したり関係性が途切れないよう支援している。	利用者一人ひとりのかけがえのない人や場とのつながりが継続できるように支援している。かつての同僚、友人、兄弟の訪問があった時は、特にゆっくりと過ごしてもらっている。受診の帰りにこれまで過ごしていた地域や自宅付近までドライブすることもある。地域の「ほたる祭り」見学に出かけて、蛍が乱舞していた当手を思い出したり、知り合いからの声かけもあった。家族の協力で外出に出かけたり、彼岸詣りや外泊をする利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士同じテーブルにしたり、作業や活動をテーブルを囲んで出来るよう支援し、孤立する方がいないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ敷地内の老健への入所の場合は面会に行き、積極的に訪問したりしている。必要があれば電話をしたり面会したりしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での会話や行動、以前の生活歴より本人の思いを把握して、支援できるよう努力している。	入居時の諸情報や日々の関わりの中で、どのように暮らしたいか、何をしたいか、誰に会いたいかなど、最終的な希望は何かなどを丁寧に把握するように努めている。利用者との対話や言葉にしづらい思いを表情や行動等からも把握し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に一人ひとりの生活史や生活歴を作成し、家族の面会時に尋ねたり、日々の会話を行う事でその時の様子をより詳しく知るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者がアセスメントを行い、カンファレンスを行い、本人の状況を全体で把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケアカンファレンス、担当者会議を行い、それぞれの意見をもとに介護計画を作成している。	利用者や家族との日々の関わりの中で、暮らしの意向反映した介護計画である。利用者の視点に立って、その方らしく暮らし続けるための必要な支援が盛り込まれた具体的な介護計画である。担当者会議や相談会で、各職員から意見や視点を出して、全職員で練った計画である。計画は、毎月、プラン通りかを評価を含めて振り返っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた日々の記録が出来ており、ケアの実践、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所へのレクリエーション参加、出張散髪の利用、自宅への外出などをおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前働かれていた職場に行ったり、地元の祭りに行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの専門医への受診の継続や必要時は本人、家族の希望に添って適切な医療を受けられるよう配慮している。月に2回訪問診療があり、医師との情報交換はできている。	入居までの一人ひとりの受診状況を把握し、利用者や家族が希望するかかりつけ医での受診である。現在は利用者全員が、協力医療機関(母体病院)を希望している。家族の協力を得ての受診であるが、それができない場合は職員が付き添っている。専門科の受診は、家族の協力を得ている。協力医とは何時でも相談や受診ができる。定期的な往診と、年1回の採血診断もある。歯科医には家族の協力と職員の支援で受診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を常勤配置している。日常の身体的変化を相談し、看護師は主治医へと報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を行い、家族とも相談しながら適切な期間で退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、主治医と相談しながら方針を決め、共有し支援に取り組んでいる。	「重度化・看取り介護の指針」があり、利用契約時に十分な話し合いがもたれている。看取り介護の事例もある。主治医と密接に連携を取りながら、家族と幾度となく意思を確認し、話し合いを重ねながら、自然な流れを家族に理解してもらい、安らかな最期を見送っている。安心して人生を閉じる最期の居場所として、ホームを希望する家族が増える傾向があり、職員は毎回テーマを決めて看取り介護に関する勉強会をもっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練が出来ていないため、今後勉強会の計画、実施が必要。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練と水害訓練は地元消防団・消防署の協力により、定期的に行っているが、地震についても訓練が必要。	法人全体の避難訓練とは別に、ホーム独自に消防計画に基づいて年2回の避難訓練を実施している。消防署と地元消防団の協力や指導も受けている。非常時の自動通報装置も整備されている。運営推進会議で災害対策について協議も行われているが、避難訓練に近隣住民の参加までには至っていない。地震対策は、地震時の揺れだけでなく、溜池の決壊等に備えた地元との総合的な対策の必要性が考えられている。	火災時だけでなく、ハザードマップに含まれる地形の特徴から、地元住民や行政との自然災害に対する協力体制の検討を、これまで以上に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を踏まえ、入浴や排泄の時などプライバシーに配慮して言葉かけする時は近くに行って話しかけるよう心がけている。一人一人に沿った言葉かけや援助を行っている。	利用者一人ひとりのその人らしい尊厳ある姿を尊重している。これまでの人生で頑張ってきたこと、誇りや自慢、悲しみ等、心の中に残存している事を大切に、支援の基盤にしている。支援が必要な場面でも、まず本人の気持ちを大切に、さりげないケアを心がけている。言葉かけや言葉遣いも最低限のマナーとしての課題であると捉えている。個人情報保護に関する希望を伺い、個人情報がきちんと守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度本人の思いや希望を尋ねたり、話しかけたりし本人の意思を表現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々様子や希望に沿ってその日その日に合わせた支援が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人用の化粧品を準備したり、髪染めをしたり、おしゃれしてお出かけしたり、その人らしい生活ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に応じた準備や片付けを行っている。	職員はそっと見守ったり、「美味しい？」などと声をかけながらの食事風景である。利用者は自分のペースでゆっくりと食事を摂り、食後は談笑も聞こえる。食事は厨房で調理されたものを注ぎ分けているが、ご飯はホームで炊いている。朝食時には一品付け加えている。管理栄養士が、利用者の嗜好や、健康状態を顧慮しての献立である。職員と一緒に調理を運んだり、食器を片づける方もある。目立たないが食事用のエプロン使用の方には、家族の了承を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食事量にこだわらず、補助食や嗜好品をあわせて提供することにより、必要なカロリーや水分量が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに対し言葉をかけ援助を行い、口腔ケアができるようにしている。口腔内の状態に合わせて、ブラシやスポンジ、口腔ウエットティーパーを使っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用しその人その人に合わせて支援することで、トイレで不安を与えることなく排泄でき、なるべくオムツを使用しないよう支援している。	トイレの習慣や間隔、時間など利用者一人ひとりの状況がきちんと把握されている。トイレの場所がわからずにストレスを覚える方もあり、トイレでの排泄ができる様に、各人に合わせた支援である。入居後、自立に近い形になった方もある。夜間は職員一人での排泄支援であるが、他の支援と重なった場合は、リスクの高い方の支援を優先している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日チェックし、一人ひとりについて対応方法が決まっている。便秘傾向の方には水分摂取や運動を促している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があれば対応したり体調に合わせて入浴する日を調整したりしている。	週に3回の入浴を基本にしているが、希望する方は毎日でも入浴ができる。入浴時間帯は午前中でも午後でも、本人の希望に応じている。湯温や入浴時間も同じでゆっくりと入浴してもらっている。車椅子利用の方には、風呂用椅子を準備している。「入らなくてよい」「家で入る」などと入浴を嫌がる方には無理強いをせず、その原因を探り、適切に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて眠りたい時に安心できる場所で休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノートを活用したり、服薬管理表や熱型表、情報用紙などに記載し、一人ひとりの薬の内容を理解し、症状の変化が観察できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の手入れや家事に参加したり、趣味を活かしたり、好きなものを食べたり、天気の良い日は散歩や外出を行い楽しく過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内を自由に散歩できたり、希望があれば家族と協力し自宅へ外出したり出来るようにしている。	広い敷地内を散歩したり、外気浴で新鮮な空気を味わっている。玄関の近くに設けられている庭園は歩きやすく、季節の花や木々が美しく季節の移り変わりも感じさせてくれる。ベンチに座ってゆっくりと過ごしこともできる。年間行事として、花見、紫陽花見学、神社への参拝、ダムや道の駅までのドライブ等が計画され、利用者の楽しみにもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちの財布を自己管理されている方もおられるが、ほとんどの方がスタッフ管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や贈り物が届くとお礼の電話をかけたり友人や家族への手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や貼り絵を飾ったり写真を飾ったり、テレビの音やカーテンでの光の調整を行い心地よく過ごせるようにしている。	利用者が多くの時間を過ごすリビングは、テーブルやソファの配置が工夫され、気にいった所で思い思いに過ごしている。テーブルに座る場所も利用者と話し合っって時々変えている。テレビ、新聞、雑誌、一緒に造った季節の貼り絵(雛飾り)などが見受けられる。無用な光や音も無く、室温や湿度も快適にたもたれており、居心地良く過ごせる場所になっている。どの空間も清潔で、利用者と一緒にする清掃も行き届いている。また、安全にも十分に配慮した諸設備でもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座ったり、気の合う方のテーブルへ自由に移動したり、促したりして落ち着いて過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や面会時に家族と相談し、なじみの家具を配置し、写真や手紙、その方の作品などを飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	各居室とも、利用者や家族と相談し、馴染みの物や好みの品が持ち込まれ、その方らしく落ち着いて暮らせる部屋になっている。整理用のケースや小たんす、テレビ、寝具、家族との写真、博多人形、家族といっしょに活けた生花、可愛いぬいぐるみなどで温かい雰囲気が感じられる各居室である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など分かりやすく表示したり、日時や時計を見やすい所に設置することで理解し行動しやすいように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない